



成美っ子

学校だより 令和7年度No.8

「心にゆとりを — パプアニューギニアで学んだこと —」

生徒指導主事 森 敬

私は若い頃、青年海外協力隊として、南太平洋に浮かぶ国・パプアニューギニアで体育教師として2年間活動した経験があります。今から思えば、あの2年間は、私自身の価値観や生き方を見つめ直す大きな転機となりました。

派遣当初、私は大学を卒業したばかりで、「現地のために何か役に立ちたい」と意気込んでいました。しかし、現実はそのように簡単ではありませんでした。言葉の壁、文化の違い、教育環境の違い……自分にできることの小ささを痛感する毎日でした。

それでも、村の人たちは私を温かく迎え入れてくれました。つたない現地の言葉で会話をするだけでも、「ありがとう」と笑顔で返してくれるのです。体育の授業と一緒に楽しむこと、村の行事に参加すること、その一つ一つが「あなたがここにいることがうれしい」と受け取ってもらえる。それは、何にも代えがたい喜びでした。

現地の人々の暮らしぶりも、私に多くの気づきを与えてくれました。パプアニューギニアの人たちは、時間の流れがとてもゆったりしています。何があっても慌てず、笑顔で話し合い、助け合いながら暮らしています。日本のように便利ではありませんが、心に余裕がある生活。驚いたことに、私の知る限り、現地で自殺をしたという話は一度も聞きませんでした。それだけ、人と人とのつながりの中で、生きることを大切にしているのだと感じました。

一方、日本はとてもまじめで勤勉な国です。私自身、日本の教育の中で育ってきましたし、教師としてまじめさを大切にしたいという思いもあります。しかし、時に「ちゃんとやらなきゃ」「失敗しちゃいけない」という気持ちが、子供たちや私たち大人の心を追い詰めてしまうこともあるのではないのでしょうか。

パプアニューギニアで学んだのは、「がんばる」と同じくらい、「ゆったりと心穏やかに生きる」ことの大切さです。ボランティアとは、人のためにするものと思っていましたが、実際には自分自身の成長のためでもありました。そして、自分の心が満たされていると、周りの人にも優しくなれるのだということを教えてくれました。

子供たちにも、そして私たち大人にも、もっと「心のゆとり」をもって過ごしてほしいと思います。失敗してもいい、ゆっくりでもいい。笑顔で一日を終えられることこそ、何より大切なことではないのでしょうか。

日々の忙しさの中で、ふと足を止めて、自分や家族、子供たちの「心の声」に耳を傾けてみませんか。教師として、保護者の皆様と共に、子供たちが「心豊かに」育っていく環境をつくっていきたいと思っています。

全国花のまちづくりコンクール 学校花壇の部 入選

参加した201校の中から、「入選」として表彰されることになりました。（入賞は、大賞1校、優秀賞・奨励賞4校、入選16校）土づくりや水やり等、多くの方々にご協力いただきました。本当にありがとうございました。